

20～29歳女性の子宮頸がん検診の未受診理由に関する実態調査及び 女子大学生の参画による子宮頸がん検診等に関する啓発プログラムの開発

<抄録>

本研究の目的は、全国的に検診受診率が伸び悩んでいる20歳代女性を対象に子宮頸がん検診未受診理由や本当は知りたいけど聞けない事などの実態を明らかにし、子宮頸がん検診の啓発プログラムを開発する事である。

対象者は20歳～29歳の女性とし、第1研究では、A市内の検診機関にてがん検診等受診者に対し、独自に作成した自記式質問紙調査をWebにて実施した。第2研究では、研究協力者に対して、半構造化されたインタビューガイドに沿い、グループインタビュー法を用いてインタビューを実施した。質問項目は、第1、2研究共に、子宮頸がん検診の「未受診理由」や「本当は知りたいけど聞けない事」などである。第3研究は、第1、2研究結果により明らかになった「未受診理由」、「聞けない事」を基に検診啓発プログラムを開発した。

20歳代女性における未受診理由は、「特に症状がないから」、「予約の手間」、「羞恥心による検診控え」、「婦人科かかりつけ医がない」ことなどであり、第1研究、第2研究に共通していた。検診前に知りたい情報としては、検診機関の詳細、検診費用に関することであった。また、第2研究からはSNSの情報による不安感の増強なども未受診理由につながっていることが明らかとなった。これらの結果を基に第3研究として必要な情報をまとめた「予防啓発リーフレット」を作成し、女子大学生による若年者へのがん教育のツールとして活用した。

本研究において明らかになった実態調査結果を踏まえ、疾患や検診に関する詳細な情報提供、二次予防としての検診受診の意識づけ、羞恥心への配慮、検診受診環境の整備などを啓発活動に活かしていく必要性が示唆された。